

国語学習プリント

date: 年 月 日

学習内容: 比喻をとらえる 未来へ向かって

年 組 番

わたしを束ねないで

氏名



わたしを束ねないで 新川 和江

わたしを束ねないで
あらせいとうの花のように
白い葱のように

束ねないでくださいわたしは稲穂
秋大地が胸を焦めす
見渡すかぎりの金色の稲穂

わたしを止めないで
標本箱の昆虫のよつに
高原からきた絵葉書のよつに
止めないでくださいわたしは羽撃き
こやみなく空のひろさをかいさぐつている
目には見えないつばさの音

わたしを注がないで
日常性に薄められた牛乳のように
ぬるい酒のように
注がないでくださいわたしは海
夜とほうもなく満ちてくる
苦い潮ふちのない水

わたしを名付けないで
娘という名妻という名
重々しい母という名でしつらえた座に
坐りきりにさせないでくださいわたしは風
りんごの木と
泉のありかを知っている風

わたしを区切らないで
や・いくつかの段落
そしておしまいに「さようなら」があったりする手紙のようには
こまめにけりをつけないでくださいわたしは終りのない文章
川と同じに
はてしなく流れていく拡がっていく一行の詩

▽この詩の形式は

◇各連の共通項をさがしてみよう

▽あらせいとう

ストック(アブラナ科の多年草
ブーケなどに用いられる)

▽大地が胸を焦がすの「胸を焦がす」について

○用いられた表現技法

○どんな意味合いとして捉えたらよいだろうか



▽日常性に薄められた牛乳ぬるい酒とは何を表す(象徴する)のか

▽『束ねる』『止める』『注ぐ』『名付ける』『区切る』という動詞から、受ける印象を感じ取ろう。

※文法問題

a 『束ねる』① 『止める』② 『注ぐ』③ 『名付ける』④ 『区切る』⑤ の活用の種類を選べ。

ア 五段活用 イ 上一段活用 ウ 下一段活用 エ 力行変格活用 オ サ行変格活用

ヒント 本文の「ない」につづく形を参照

b 本文中の『束ねない』『止めない』『……』などの動詞部分の活用形は